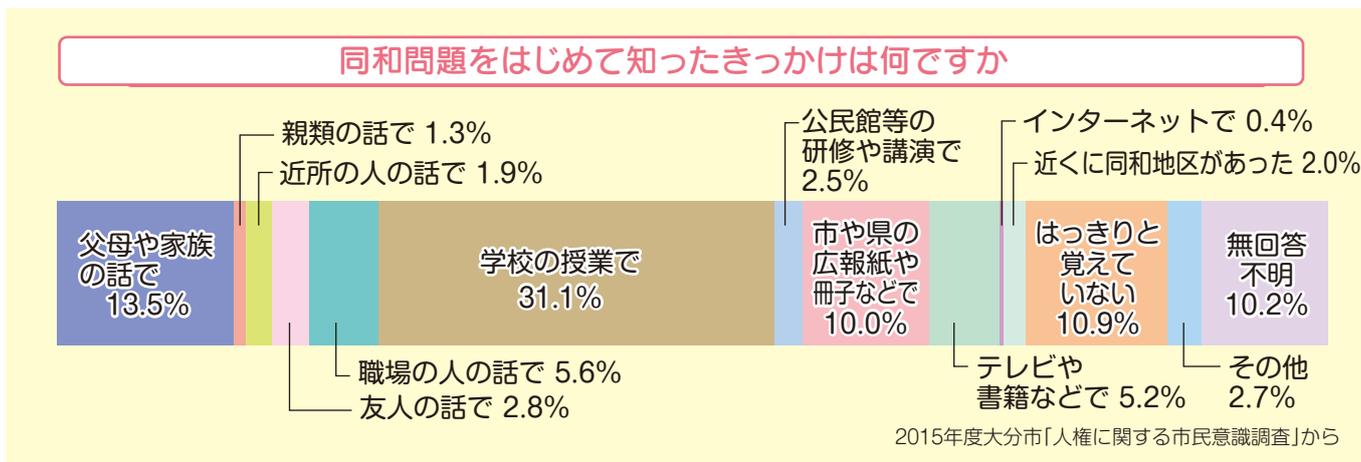


豊かな心を育てる —家庭教育の大切さ—

人権との出会いの場



「人権に関する市民意識調査」では、同和問題をはじめて知ったきっかけは「学校の授業」が31.1%で、次に「父母や家族の話」が13.5%となっています。

一般的に、子どもたちが人権と初めて出会うのも、**決めつけや思い込みを刷り込まれていくのも家庭**です。わたしたち大人が、人権について正しく知り、自分の問題としてとらえ、家庭で話題にしていくことが、「子どもたちの明るい未来」へのスタートではないでしょうか。

人権が大切にされる家庭で子どもの心は育つ

わたしたちのまわりには様々な人権問題があります。差別は、いったい誰の問題で、誰が解決しないといけないのでしょうか。

子どもたちと一緒に人権について考え、思いを出し合うことは、問題の解消につながるのももちろんですが、それ以上に子どもたちの心を育てるとともに、子どもたち自身の人権を保障することにつながっていきます。



大分市人権フォトコンテストの作品

豊かな心を育てるために —今、注目されている**自尊感情**—

わたしたちは、世界にひとりしかいない自分自身を、かけがえのない存在であると自覚することが大切です。この自分自身をかけがえのない存在として認め、欠点も含めて自分自身を大切にすることを**自尊感情**といいます。

失敗もするけれど、完全ではないけれど、**精一杯**生きている自分を受け入れることができたとき、他の人の不完全さや、失敗も受け入れることができます。

そのため、自尊感情はすべての人の人権を尊重する基本となる意識であると言えます。自尊感情は、子どものころから育まれると言われています。特に、自分の身近な人が自分を認めてくれる、自分の気持ちをわかってくれるという感覚は、自尊感情の**基礎**となるものです。例えば、幼い子どもがどんなに泣き叫んでも、そのことを丸ごと受け入れる親の態度、「無条件の受容」が自尊感情を育てていく上で欠かせません。甘えることにより得られる安心感が、その後の自立や成長に向けての重要な土台になっていくからです。

このように、**子どもを愛し認めること、特に幼少の頃から子どもに対して身近な大人がどのように接していくかが重要**であると言われています。

リフレーミング

自尊感情を高めるためには、リフレーミングが有効であると言われています。わたしたちは、様々な影響を受け自分や他の人に対して、自分なりの見方をつくりあげています。このような自分なりの見方が、マイナスイメージを持たせ、自分をつまらない存在であると思わせることがあります。例えば、決断することが苦手で、優柔不断だと言われて悩んでいる人がいるとします。見方を変えると、あせらずじっくり物事を進める性格だとも言えます。このような自分独自の見方を変えて物事を見ることをリフレーミングといいます。柔軟な発想で見方を変えて自分自身や他の人を見つめ直し、受け入れることができるようにすることが、自尊感情を高め、一人ひとりが大切にされる家庭や地域づくりにつながるのです。

できごと

今日の授業参観は算数（数学）でした。てつやさんは、日ごろ手をあげることは少ないのですが、答えに少し自信があったので、思いきって手をあげてみました。すると、先生に指名され、黒板に式と答えを書くことになりました。

そして、てつやさんは、いっしょうけんめいに自分の考えを書きました。

ところが…式はあっていただけ、途中の計算がちがっていて、答えはあっていませんでした。

帰宅後の、てつやさんとお母さんの会話です



てつやさん

みんなの前で答えをまちがえちゃうなんて、最悪…。あんな恥ずかしい思いをするのなら、手をあげなければよかった。

1

てつやが手をあげて黒板に書き始めたとき、ドキドキしたわ。お母さんも、みんなの前で間違えちゃったことがあるの。

2

てつやが頑張っている姿を見て、とっても嬉しかったよ。お母さんもてつやみたいにいるんなことにチャレンジしてみようかな。



お母さん



次も頑張ってみようかな

応援しているよ。



お母さんは、十分に話を聞いたうえで、てつやさんの気持ちをしっかり受け止め、①の吹き出しのように共感していることを伝えようとしています。また、お母さんは、②の吹き出しのように、てつやさんのありのままの姿を認め、結果だけにこだわるのではなく、いろいろなことにチャレンジすることの大切さに気づかせ見方を広げよう（リフレーミングしよう）としています。

子どもの自尊感情を育てていくためには、話を最後まで聴き、気持ちを十分理解していると伝え（共感し）さらに、見方を広げたり変えたり（リフレーミング）していくことが重要です。